

「鉄と鋼」特集号原稿募集案内

テーマ・鉄鋼材料の破壊靱性

原稿締切日：昭和 52 年 11 月 10 日

力学的分野において話題を呼んでいた破壊力学は近年材料力学の分野にも積極的に取り入れられて定着した感があります。さらに環境の影響などについても研究がさかんに行なわれています。今回は破壊のモード、破壊靱性値、疲れき裂の発生及び伝播の問題などと、冶金学的因子の関連に焦点をあて、鋼構造物の安全性向上ならびに今後の鉄鋼材料の進歩に寄与ができることを期待し、特集号を企画いたしました。

次のようなテーマを仮りに設けましたので関連ある論文あるいは技術報告のご投稿をお願いします。

(1)不安定破壊(延性破壊を含む)、(2)破壊靱性値による鋼材の評価、(3)疲れき裂の発生と伝播に関する破壊力学的取扱い、(4)高強度鋼の破壊、(5)大型構造物の破壊

記

1. テーマ 鉄鋼材料の破壊靱性
2. 原稿締切日 昭和 52 年 11 月 10 日 (木)
3. 発行 鉄と鋼第 64 年 7 号 (昭和 53 年 6 月号)
4. 原稿枚数 図, 表, 写真を含めて所定の原稿用紙 50 枚以内 (厳守) (刷上り 10 頁以内)
5. 送付先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会編集課 電 03-279-6021 (代)

(注) 原稿表紙に「破壊特集号」と朱書してください。

新刊紹介

特別報告書 No. 24

「わが国における製鉄技術の進歩」刊行のお知らせ

(共同研究会製鉄部会第 50 回会議記念出版)

本書は、製鉄部会が昭和 30 年 5 月第 1 回会議を開催し、本年 5 月 50 回目を迎えるに当り、第 50 回会議を記念し発刊されたものである。

わが国の鉄鋼技術は、欧米先進国からの技術の導入、即ち安政 4 年 (1857) 釜石鉄山における大島高任の洋式炉の導入に端を発するのでありますが、その後百有余年、幾多の先駆的技術者の血のにじむ努力が実を結び、現在、世界に冠たる鉄鋼技術を完成いたしました。本来はこの百有余年に亘る製鉄部門の技術の発展を写真、図、表を中心にまとめたものであります。

1. 書名 「わが国における製鉄技術の進歩」 B 5 判, 320 頁, 上製本
2. 価格 会員 4,200 円 (送料 200 円)
非会員 5,500 円 (送料 200 円)
3. 申込方法 郵便振替 (東京 7-193 番), 銀行振込, 現金で前納して下さい。
4. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会編集課 Tel. 03-279-6021
5. 内容 第 1 編 製鉄技術発展の経過 第 2 編 原料事前処理技術発展の経過
第 3 編 コークス製造技術の発展の経過 第 4 編 高炉技術発展の経過